

適合証明規格運用連絡会



JFS-A/B規格 Ver. 3.0 移行対応について

2022/6/10





移行に関する通知文書

「JFS-AB規格Ver. 3.0の適用開始及び移行対応」 （2022年5月25日発効）
⇒ 監査会社・研修機関専用ページ

「適合証明事業者におけるJFS-AB規格Ver. 3.0の適用開始及び移行対応」
⇒ JFSM ニューストピックス
組織様へのご説明の際にご活用いただけます。

JFS-B規格文書Version 3.0ガイドラインEdition 1.0 を公表いたしました

2022.05.25

規格・ガイドライン等

一般財団法人 食品安全マネジメント協会は、2022年3月31日にJFS-A規格文書Version 3.0、JFS-B規格文書Version 3.0を公表しています。

今回、JFS-B規格文書Version 3.0についての解説を記載したJFS-B規格文書Version 3.0ガイドラインEdition 1.0を公表いたします。併せて、JFS-B規格文書Version 3.0 自己チェックリストも公表いたします。

規格文書Version 3.0による監査時期、移行対応については下記をご欄ください。

[2022 ND 102 19 ja 通知 適合証明事業者におけるJFS-AB規格Ver. 3.0の適用開始及び移行対応 \(PDF\)](#)

移行スケジュール

		年 2022							2023												
		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
JFS-B監査	監査会社移行準備期間				12月31日準備完了																
	監査でのVer. 3.0の適用	※準備でき次第							1月1日以降すべてVer. 3.0												
JFS-A監査	監査会社移行準備期間						2月28日準備完了														
	監査でのVer. 3.0の適用	※準備でき次第							3月1日以降すべてVer. 3.0												
研修機関	JFS-A/B規格Ver. 3.0の移行準備※協会への申請含む				12月31日準備完了																
	JFS-A/B規格Ver. 3.0の内容による研修実施	※準備でき次第							1月1日以降すべてVer. 3.0												

※JFS-A規格 Ver. 3.0ガイドラインは7月頃公表予定

監査会社の対応（準備期間）

- Ver. 3.0の規格要求事項・移行要領について適合証明組織への通知
- 監査・適合証明活動に関わる要員への研修
- 監査・適合証明関連文書の改定



⇒準備でき次第監査実施可能

（JFSMへの申請等は不要。定期事務所審査時に確認させていただく）

監査会社の対応（工数）

定期監査・更新監査においては、通常の監査に加えて追加された要求事項を初めて監査することになる

⇒事前文書監査・現地監査を合わせて少なくとも0.1人日追加しなければならない。

※事前文書監査・現地監査どちらにどれだけ追加するか指定はありません。

追加された要求事項から、どちらにどれだけ追加するかご検討ください。

追加分の監査が適切に実施されていれば「事前の文書確認に0.1人日追加・現地監査は追加無し」という考え方も可です。

最低0.1人日⇒不足と考える場合には組織と合意の上さらに追加も可

参考) Ver.2.0とVer.3.0の対比

JFS-A : <https://www.jfsm.or.jp/scheme/docs/eec3a497b0f12d4a900a369cdaabce3fcfcac504.pdf>

JFS-B : <https://www.jfsm.or.jp/scheme/docs/36fcadb717d0a9715280c59cd2cdb624c4795bdd.pdf>

JFSM-DB入力時「計算監査工数からの増減の根拠欄」にJFS-A/B規格Ver. 3.0へ移行に伴い事前文書監査・現地監査にそれぞれ何工数追加したかを記入

jfsm 監査会社の対応（JFSM-DBの登録・適合証明書）

Ver. 2.0⇒Ver. 3.0へ移行した場合は原則適合証明書・JFSM-DB
変更が必要

定期監査の場合、適合証明書の**監査員・判定員**の氏名も変更

適合証明組織と監査会社の間で**合意の上**、適合証明書については、
次の更新監査までの間、**既に発行した適合証明書を利用可**。

次の更新監査までの間に移行以外の登録情報変更が生じた場合は
Ver.含めすべて最新情報に書き換える。



研修機関の対応（準備期間）

- 研修資料を改訂⇒協会に申請・承認（JFSM承認
研修機関及び講師に係る承認基準文書5.6.1）
- 規格の変更点を講師に周知する。



追加：コロナ対応



2020年3月30日発効通知文書

**「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う監査対応について」
による特例措置を2022年12月31日付で解除予定
⇒適合証明を延長できる期限が2022年12月31日まで。**

以降、監査の実施が困難であり適合証明期限の延長が必要な場合は個別にJFSMが承認を検討中。

失効する旨の通知文書を発効致します。

例：適合証明書の有効期限が2022年8月1日の場合：延長したとしても監査2022年12月31日までに監査を実施しなければならない

※現地監査が完了、是正処置待ちは可。

JFS-C規格ではGFSIの通達に基づき2021年7月31日をもって解除されている。

別途、リモート監査のシステム構築に向けた取組検討中。

@2022JFSM

移行に関するFAQ

Q1	移行期限内に監査を行ったが組織の是正処置に時間がかかり、期限を過ぎてしまった場合はどうなるのか。
A1	移行の期限はあくまで監査までの完了期限としました。その後の組織の修正処置・是正処置・判定はそれ以降となっても問題ございません。
Q2	2023年実施予定の監査を前倒し、次回はVer2.0による監査にしたいという要望がある。
A2	プログラム文書上、監査の前倒し後ろ倒しは規定しておりません。2～3カ月程度の前後は実例があり、スケジュール調整の範囲内としております。それ以上の前倒しをすると監査と監査の間の期間が空きすぎる懸念があるため、問題と考えます。次回プログラム文書改定時に、期限を設けることを検討中です。
Q3	組織への通知したことや、適合証明書の書き換えを行わない場合の組織との合意は記録が必要か。
A3	要求はしておりません。
Q4	移行準備が間に合わない場合はどうなるのか。
A4	監査会社はプログラム文書3.5.2③、研修機関は承認基準文書7.1.1③の要件により一時停止となる可能性があります。



ありがとうございました。

休憩後、JFS-A/B規格 Ver. 3.0及び移行に関する質疑の時間を設けております。

QRコードもしくはURLにアクセスの上入力をお願い致します。

時間の都合ですべての質問に回答できない可能性もございます。

回答できなかったご質問については、まとめて文書で回答をお示しする予定です。

ご理解の程よろしくお願い申し上げます。